2020年（令和2年）9月1日　第407号

とよのかんぽー

発行所
長野市立豊野公民館
長野市豊野町豊野612-8
電　話　257-5875
発行人　柳原政利
印刷所　㈱信光社

豊野町の世帯と人口（2020年８月１日現在）　3,653世帯　人口9,391人（男4,563人　女4,823人）

令和2年度講座
2か月遅れのスタート

昨年の台風19号災害で後半の事業中止を余儀なくされた豊野公民館。新年度から再開に向けて準備していたところ、新型コロナウイルス感染症が発生、またもや様々な事業が中止となってしまいました。

コロナ第1波が収まった6月19日、延期していた講座「健康フライデー」が2か月遅れてようやくスタート。参加された皆さんは、久しぶりに体を動かし、また、歌える喜びをかみしめていました。

一方、屋外の講座第1回は「りんごの丘 そぞろ歩き」と称して、見晴らしの良いりんごの丘公園を目指して散策。帰りは泉平を回って、樹齢３５０年、樹高約20㍍の市指定記念物伊勢社の大ケヤキを見て帰路につきました。

コロナ騒ぎで外出の機会が減っていたので、楽しい時間を過ごすことができたようです。

健康フライデーで久しぶりに体を動かす受講生

樹齢350年の大ケヤキ

豊野の風

新しい言葉をいろいろ耳にしました。三密、オーバー・シュート、テレワーク、ソーシャル・ディスタンス、パンデミックそして、PCR検査、すべてコロナウイルスによる言葉でした。

やっと少しずつ収まったかなと思っていたら、いつの間にかまた後戻りしました。当分マスク着用と密な活動は自粛継続となりそうです。

台風19号の復旧工事により豊野支所、豊野中学校、老人福祉センター、公民館、体育館等公共施設も少しずつ工事が進行し、元に戻ろうとしております。それに対し、被災者のご自宅改修はまだまだかかりそうだとお聞きしています。

夏祭りも中止となりましたが、秋ごろよりボランティア活動の一環でスポーツ広場を計画している団体もあります。

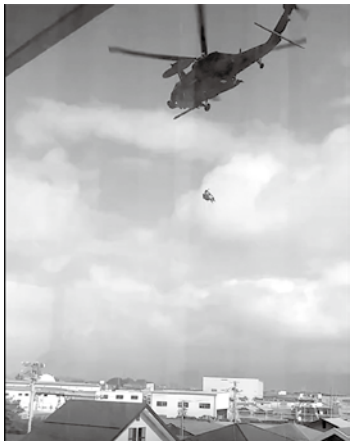
少しでも元気に毎日が過ごせる様、お声掛けを心掛けたいと思います。（H）

がんばろう豊野！
みんなの知恵と力で

19号台風による千曲川の堤防決壊から10か月、今思うことは、誰もが予想しなかった被害の大きさでした。我が家は、全壊。初めは、自分が被災したとの実感が湧かず、他人事でした。そして、避難所から浸水した1階の整理に通う毎日。親戚、知人、そしてボランティアが初めてという方々まで、大勢の皆様と一緒に水没した家財等、外に出すのが精一杯で、すべて廃棄せざるを得ませんでした。

12月に避難所が閉鎖され、須坂の借り上げ住宅に移ってからは、豊野の被災した自宅の後始末に通う毎日でした。変わり果てた我が家に愕然とし、無くした財産、87年の私の過去も二度と戻らないと気付きました。そして、今後の生活がどうなることかと不安がよぎりました。

この災害で失ったものは考えられないほど大きなものでしたが、得たものも多く、私の人生で最高の宝物になりました。その一つが、ボランティアです。私のボランティア人生は、定年後の長野オリンピックからスタートし、その後長野エムウェーブで開催されたスケートの国内大会、国際大会のボランティアが元気の源です。


ヘリ救出される山岸さん

今度の災害では、2階のベランダから自衛隊ヘリで主人と二人で救助され、避難所生活が始まりました。避難所は食糧も生活物資も十分で、必要な情報も不自由なく入りました。市の職員や各地からの応援の職員にも本当に頭が下がりました。夜中も寝ずに交代で警備してくれました。

公助はもちろん大切ですが、共助に勇気づけられて頑張ることができました。年末年始の楽しみもない静かな正月でしたが、まちの縁側「ぬくぬく亭」に出会い元気づけられたのです。「ぬくぬく亭」は、水害に見舞われた豊野を以前にも増して絆を深め、笑顔で仲間と再会を喜び合える町にしようと、豊野地区住民自治協議会と賛育会などの関係者が立ち上げたもので、被災者が気軽に立ち寄って会話を楽しめる交流サロンです。私も、豊野地区住自協福祉健康部会のボランティア担当として各グループに呼びかけ当番制で毎日2名から4名の方々と活動しています。

鉄道跨線橋から大道橋方面を望む

仮設住宅で生活している方、被災住宅の2階で不自由な生活に耐え頑張っている方など環境は違っても想いは一緒です。1日も早く豊野に戻り、以前の生活とまではいかなくても、顔見知りと触れ合える日々を望んでいるのです。

今回の災害を通して、赤い羽根共同募金が避難所の生活支援に役立っていることを知りました。私たちの募金が私たちの町のために使われていたのです。自分の町をよくする仕組み、赤い羽根共同募金に感謝した災害でした。

「ぬくぬく亭」のお話相手ボランティアは、新型コロナウイルス感染防止対策のため4月から自粛せざるを得ませんでしたが、7月から再開できました。ボランティアのグループは100名ほどです。豊野支所駐車場にお出かけください。お待ちしています。

私たち豊野の住民は、災害にもコロナにも負けない知恵と心の強さを持っています。みんなで頑張りましょう。自分のために、次世代を託す、子ども孫のために、今こそ豊野の知恵と力で。

（山岸幸子）

「ゆたかちゃんJr.」誕生

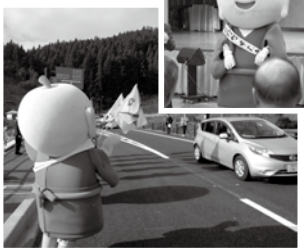
昨年の台風19号災害や新型コロナウイルス感染症のダブルパンチを受け、住民の交流や笑いが減っています。この状況を打破し、地域に活気を取り戻そうと、着ぐるみ「ゆたかちゃん」の子供を誕生させることになりました。

これは、「ゆたかちゃん再ブレイクさせ隊」が、長野市支所発地域力向上支援金事業に応募し、採択されたもので、台風災害復興祈念として、10月13日にお披露目予定とのこと。

豊野町時代に作られた「ゆたかちゃん」は、様々なイベントに活躍してきましたが、汚損や高齢化が進んでいたものです。

文化祭⇨

広域農道
全線開通式⇩



ゆたかのに輝く

長野地方猟友会豊野支部

みんなで守ろう　おいしい農作物

りんご畑が掘り起こされ、枝が切り取られた。ジャガイモが取られ、トウモロコシがむしられ、ブドウがきれいに食べられた。…近ごろ、農作物が荒らされることが増えています。これらは、イノシシ、ニホンジカ、タヌキ、ハクビシン、アナグマ、カラス等の有害鳥獣のしわざです。

狙いをつけて

腐ったリンゴは熊の大好物

この被害を減らすため、私たち猟友会豊野支部が活動しています。農作物の被害を軽減するため、あるいは射撃を楽しむためなど、入会の動機は様々ですが、31名の会員が和気あいあい活動しています。

今回は、猟友会の環境保全のための有害鳥獣対策の取り組みと、誰もが実施できる留意事項を紹介します。

エサを与えない

傷みなどで食べられないリンゴ・モモ・ナシ・ブドウ等の果樹や家庭の生ごみを畑に捨てない。カキを木に成らせたまま放置しない。

人間にとって食べられない農作物でも、野生鳥獣にとっては大好物なのです。

農作物を防護する

防獣ネット・電気柵等で作物を囲む。トウモロコシは全体にネットを掛け、ジャガイモは家庭菜園用電気柵（2万円前後）を設置して防ぎます。

電気柵(左)と防獣ネット(右)

追い払う

野生鳥獣が出没したらすぐ追い払います。スマホで写真を撮るのではなく、動物が人間を嫌うようにしましょう。

隠れ場所を無くす

特に山際のやぶを刈り払い、見通しを良くしておきます。

捕獲する

現在豊野町内には、くくりわな約80基、大型獣用おり2基、小動物用箱わな約30基設置されています。私たち猟友会員が毎日その見回りを行い、冬季の巻き狩、カラスの追い払いなど、日々会員同士協力し合い捕獲に努めています。

また、皆様のご支援をいただき多くの箱わなを設置することができました。おかげさまで、その成果が表れています。昨年度の捕獲実績は別表のとおりです。

今年度は、やや少なくなってきていますが絶滅することはないでしょう。夏にはクマが2頭捕獲されました。近くの畑には捨てられた腐れりんごの食べ跡が残っていました。

最後に猟友会員は有害鳥獣駆除が第一目標ではありません。有害鳥獣から畑を守り、安全に作業ができ、おいしい農作物が収穫できるようにお手伝いすることです。地域みんなでこれらのことに留意して、環境保全に努めましょう。

なお、「広報ながの」本年7月号10ページもご覧ください。

（原　公一）

令和元年度豊野町内有害鳥獣捕獲実績

イノシシ	44頭
ニホンジカ	18頭
小動物 タヌキ、ハクビシンほか	73頭
鳥類 カラスほか	20数羽
参考 カモシカ	13頭 （放獣）

小動物捕獲用の箱わな

設置した大型獣捕獲用の檻

多くの方に支えられて

豊野東小学校長　桂本 久美子

豊野東小学校では、毎年多くの地域の方に協力いただき、様々な活動を行っています。

今年は、コロナ禍ではありますが、感染防止をしながら、月に一回程度「おはなしりんご」の方においでいただき、本を読んだりお話をしていただいたりしています。子ども達もその時間を楽しみにしていて、じっとお話に耳を傾けています。

手芸クラブ

また、クラブ活動でも協力いただいており、昔の遊び、手芸、囲碁将棋、科学、工作、お花、球技、卓球の八つのクラブすべてで地域の方にご指導いただいています。どのクラブでも子ども達が目を輝かせて生き生きと活動する様子が見られました。

この他にも、防災教育やキャリア教育、りんごの栽培、理科の授業の準備、畑の整備など本当に多くの面から協力をいただいています。

様々な活動の中で子ども達と地域の方との会話も自然に生まれ、活動をする中で、「そうそう、その調子。」「なかなか上手だよ。」とほめていただいたり、一緒に話したり笑ったりしていただく中で、子ども達も地域の方と親しくなってきていて、多くの方に子どもを育てていただいているということを感じます。

科学クラブ

防災教育・キャリア教育

学校の職員だけでなく、多くの人に接していくことは、子ども達の成長にとって、とても大事なことだと思います。

豊野地区の方々は、学校に大変協力的で、ありがたいと感じています。地域の子どもを地域で育てるという理念がここにあるのだと思います。

りんごの栽培

今後もこの連携を大事にし、地域の方と共に子どもの健やかな成長を育んでいきたいと思います。

また、学校としても地域の方の生き方に学びながら自分の育った地域を大事に地域のために進んで行動できる子どもを育てていきたいと思います。

長野市 豊野支所から

ヨイショコまつり用 備品を新調

令和元年東日本台風災害により被災した豊野ヨイショコまつりに使用する備品を、宝くじの助成金を活用し整備しました。

残念ながら今年のヨイショコまつりは中止となりましたが、法被を50着新調しましたので、来年借用を希望する方は豊野支所内豊野ヨイショコまつり実行委員会事務局までお問い合わせください。

新調された法被

来年の夏までには新型コロナウイルス感染症が終息し、豊野ヨイショコまつりを含む豊野地区の夏祭りが開催されることを願います。

千羽鶴をいただきました

長野市富竹在住の市民の方から、令和元年東日本台風で被災した豊野地区の復興を願い、支所に千羽鶴を御寄贈いただきました。職員一同、深く感謝申し上げます。

３階で仮復旧中の支所窓口に飾りましたので、ご来庁の皆様はぜひご覧ください。

地域公民館紹介
豊野北公民館

豊野北公民館は、伊豆毛、横町、神代町の三地区で構成され、豊野区事務所に拠点を置いて活動しています。昨年6月には、「水族博物館うみがたり」を中心に上越方面の旅に45名の参加を得て有意義な研修ができました。しかし、本年度は新型コロナウイルスの感染拡大により、当館にとって大きな行事であるこの生涯学習研修旅行が実施できませんでした。

新型コロナウイルスが蔓延し始めた3月、規模を縮小し定期総会を実施して本年度の事業計画が立てられたものの実質的には、何一つ事業を行えずにいました。7月18日にようやく役員が集まり、本年度の事業について話し合うことができました。ヨイショコまつりの中止、豊野町運動会の計画変更等豊野地区の多くの行事が中止や延期、計画の変更を余儀なくされている状況です。

今後、文化祭や四公民館合同研修会等、各団体と連携した行事もコロナ禍ではどうなるか予測できませんが、このまま手をこまねいていたのでは始まりません。

そこで、感染状況をみながら恒例となった行事にとらわれることなく、生涯学習と社会教育の増進に少しでも寄与できるよう進めていきたいと考えています。

（館長　島田昌英）

第１回豊野北公民館役員会

被災からぬくぬく活動 そして地域づくりへ

県知事も来訪

被災から10か月が過ぎる。１００日目の夜、被災地を歩き、余りの暗さ、静けさ、生活感のなさに愕然としたことを覚えている。その日から半年が過ぎ、町に更地が増えた。新幹線の通過音が大きく聞こえる。住宅に隠されていた山並みが見える。ここはどなたのお宅だったのか？庭の草花はどこへ？被災前には想像もしなかった感覚や現実が迫ってくる。

被災しなければ悩むことはなかっただろうと思われる問題が生じ、さらにコロナが生活を厳しくしている。家にこもっていて言葉が出なくなった。足腰が弱った。お金がない。鬱っぽい。孫（子）が雨音を怖がる。嫁姑（夫婦）の関係がギスギスしてきた。夫（妻）との会話にイライラするなど。生活を変えざるを得なくなった被災とコロナのストレスがもたらした体調、心、関係の変化が目立ってきている。

被災者と非被災者の感覚の違いも垣間見える。会議の席上「もう水害は良いんじゃないか。」と過ぎたことのように言う方がいた。スーパーでは「まだ、ボランティアしているの？」との皮肉に満ちた言葉も聞いた。そうか、他人事なのかと溜息が出た。

そんな中で、ぬくぬく亭の活動は8か月を迎えた。訪ねれば賛育会のスタッフさんとボランティアさんがいつでも温かく迎えてくれる。愚痴をこぼし、ギスギスやイライラを話せば「家も同じだよ。」と共感してくれる人がいる。話すと悩みは軽減する。愚痴や悩みを解決に向けた専門家に繋ぐこともできる。復興に向けた意気込みを語り合えば、また、頑張ろうという気持ちが湧いてくる。非被災者に被災した状況や心情を伝えれば「そうだったんだ。」と関心を向けてもらえる。

支援物資があり、手仕事があり、体操あり、行事あり、時にお昼寝やお昼を食べる場にもなる。誰もが自分のペースで何をしていても良い心地よい空間になっている。リフォームを終えて戻る方も訪ねて欲しい。

ぬくぬく亭はその昔の良い意味での井戸端会議や昭和の縁側だ。人が集い、語り合えば世代や価値観が繋がり、地域を育む力になるのではという予感と期待がある。

被災したからこそできたぬくぬく亭を新たな地域作りに繋げたい。この被災にも意味があったと後に思えるように。

（清水厚子）

団らんの様子

コロナウイルス禍の中 イベント実施の方向

運動会　10月11日（日）
文化祭　11月8日（日）
成人式　1月2日（土）

長野県内の新型コロナウイルス感染者が増えつつあり、感染警戒レベルが2に引き上げられました。（7月29日）

このような状況を踏まえ、今年の主なイベントは、規模を縮小し、検温、身体的距離の確保、人ごみの中でのマスク着用、手洗い・手指の消毒など、基本的な感染防止策を徹底して実施する予定です。ただし、感染状況によっては中止することもありますのでご承知おきください。

詳細は各実行委員会で決定し、ご案内いたします。なお、成人式については対象者に直接案内状を送付します。

公民館使用団体 代表者会議開催

例年3月に実施してきた代表者会議は新型コロナウイルス感染症発生により大幅に遅れ、7月27日、29日に開催しました。

新型コロナウイルスの感染が広まりつつある中、適切な感染防止策を取って公民館を使用するよう説明。使用団体代表者は、参加者の氏名・連絡先を把握しておくこと、消毒用手袋を持参し、使用後に消毒用品で消毒することなどをお願いしました。

さらに、地域包括センター職員が、AEDの使用方法や熱中症予防と対処法について詳しく説明しました。

AED使用方法の実演

今後の主な講座

健康フライデー
9月18日、10月16日
11月20日、12月18日
1月15日、2月19日
3月19日（金）

このほかの講座については、新型コロナウイルスの発生状況を見極めながら進めてまいります。詳細は、回覧文書をご覧ください。

台風19号災害の 原稿（写真）を募集

大災害をもたらした台風19号災害から間もなく1年。その被害を後世に伝えるため、当時の写真などの原稿を募集します。

応募原稿は今後「とよのかんぽー」や記録誌などの制作に使用させていただきます。

連載開始　12月1日号
原稿　写真、文章
（メールなどデータ大歓迎）
原稿送付先・問合せ先
・豊野公民館
☎257－5875
メールアドレス
toyono-ph@city.nagano.lg.jp
・豊野地区住民自治協議会
☎217－6638
メールアドレス
toyono@valley.ne.jp

注意事項

応募写真の著作権は豊野公民館および豊野地区住民自治協議会に帰属します。

応募原稿に応募者以外の人物が写っている場合は、事前に使用許諾を得てください。

公民館運営審議会開催

豊野公民館の事業の企画実施について調査審議する運営審議会が開催されました。

委員は次の皆様です。（任期は令和3年5月31日まで）

会　長　善財　孝文
副会長　堀米　信一
林　理恵
和田　俊明
榎田　恵子
望月　恵美
井上由利子
伊藤　禎子
（敬称略）

文芸とよの

川柳　あすなろ会

家にいる…？　夫が毎日　家にいる!?
何よりも　鎮痛作用の　ゲームかな
酔っ払い　取り扱いが　面倒だ
入力中　話が先に　進んでた
ねえねえと　呼ぶな私は　忙しい
「記憶力　貝並みだね♪」と　子に言われ
子の苦言　成長感じ　傾聴す
主語がない　聞き返すのも　腹立たしい
子と共に　成長願う　夫かな
自覚して　あなただって　保護者でしょ
少しだけ　家事したからって　威張るなよ
言い訳で　自分の価値を　下げていく
仕事だけ　してればいいと　思うなよ

編集後記

「年を取ったら出しゃばらず、人の陰口、愚痴をやめ、他人のことは褒めなはれ」とは、京都某老師人生訓の一節である。確かに、控えめで、他人の悪口を言わず、良いところは褒めてくれる人の近くにいたいと思う御仁は多いのではなかろうか。かく言う私もそうありたいと願う一人であり、とどのつまり、年を取って必要なのはお金ではなく人徳であると、身近な人を見るにつけしみじみ思う今日この頃である。（Y）